



Web Cache Communication Protocol を使用したキャッシュサービスの設定

- [機能情報の確認](#) (1 ページ)
- [WCCP の前提条件](#) (1 ページ)
- [WCCP に関する制約事項](#) (2 ページ)
- [WCCP に関する情報](#) (3 ページ)
- [WCCP の設定方法](#) (7 ページ)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、使用するプラットフォームおよびソフトウェアリリースの [Bug Search Tool](#) およびリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、[Cisco Feature Navigator](#) を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<https://cfngng.cisco.com/>に進みます。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

WCCP の前提条件

スイッチで WCCP を設定する前に、次の設定要件に従ってください。

- 同じサービス グループ内のアプリケーション エンジンおよびスイッチは、WCCP 対応のスイッチに直接接続された同一サブネットワーク内に存在する必要があります。
- クライアント、アプリケーション エンジン、およびレイヤ 3 インターフェイスとしてのサーバ (ルーテッドポートおよびスイッチ仮想インターフェイス (SVI)) に接続されたスイッチ インターフェイスを設定します。WCCP パケットのリダイレクトが機能するた

めには、サーバ、アプリケーションエンジン、およびクライアントが、異なるサブネット上に存在する必要があります。

- 各アプリケーションエンジンに1つのマルチキャストアドレスを設定するときは、予約されていないマルチキャストアドレスだけを使用します。
- WCCP エントリおよび PBR エントリは、同じ TCAM リージョンを使用します。WCCP は、PBR（アクセス、ルーティング、デュアル IPv4/v6 ルーティング）をサポートするテンプレート上でだけサポートされます。
- TCAM エントリを WCCP エントリの追加に使用できない場合、パケットはリダイレクトされず、標準ルーティングテーブルを使用して転送されます。
- 使用可能な PBR ラベルの数は、WCCP 入力方法でイネーブルになるインターフェイスが増えるにつれて減っていきます。サービスグループをサポートする各インターフェイスでは、ラベルが1つ消費されます。WCCP ラベルは PBR ラベルから取得されます。PBR と WCCP 間で使用可能なラベルを監視および管理する必要があります。ラベルが使用できないと、スイッチはサービスグループを追加できなくなります。ただし、別のインターフェイスに同じ一連のサービスグループがある場合、新しいラベルは必要にならず、グループをインターフェイスに追加できます。
- スタック メンバー スイッチで設定されたルーティング最大伝送単位（MTU）サイズは、クライアント MTU サイズより長い必要があります。アプリケーションエンジンに接続されたポートで設定された MAC レイヤ MTU サイズは、GRE トンネルヘッダーバイトを考慮する必要があります。

WCCP に関する制約事項

サポートされない WCCP 機能

次の WCCP 機能は、このソフトウェア リリースでサポートされていません。

- **ip wccp redirect out** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して設定された発信インターフェイスでのパケットのリダイレクト
- パケットリダイレクトの GRE 転送方式
- GRE リダイレクトおよび GRE リターン
- Cisco Catalyst 3650-CX スイッチでは、パケット損失を回避するために、カスタマーエッジ（CE）に接続された1ギガバイトのポートでフロー制御インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用する必要があります。
- GRE 上での WCCP
- ロードバランシング用のハッシュ割り当て方式
- WCCP の SNMP サポート

- ハードウェアでのハッシュ割り当てマスク割り当てのみを使用したロードバランスの実行
- フラグメント化されたパケットのリダイレクト。これは、セキュリティ機能です。

一般的な制約事項

- サービス グループの最大数：8 入力および 8 出力。
- 同じスイッチ インターフェイス上では、WCCP と VPN ルーティングおよび転送（VRF）を設定できません。
- 同じスイッチ インターフェイス上では、WCCP および PBR を設定できません。
- 同じスイッチ インターフェイス上では、WCCP およびプライベート VLAN（PVLAN）を設定できません。
- **ip wccp redirect exclude in** コマンドは、出力 WCCP 方式から入力パケットを除外できるようにします。これは、CE へのインターフェイスでは必要ではありません。
- キャッシュエンジンが使用できない場合は、一致するパケットはドロップされます。これは、クローズ グループのサポートです。VRF 認識 WCCP のサポート、IPv6 WCCP のサポートはありません。
- デバイスを **ip wccp check services all** コマンドで設定すると、リダイレクト ACL がパケットと一致しなかった場合、次のプライオリティのサービスグループと照合されます。

WCCP に関する情報

WCCP の概要



(注) この機能を使用するには、デバイス上で IP Services フィーチャー セットが稼働している必要があります。

WCCP をサポートするのは、Cisco Catalyst 3560-CX スイッチのみです。

WCCP はシスコが開発したコンテンツ ルーティング技術です。WCCP を使用すると広域アプリケーション エンジン（以降、アプリケーション エンジンと呼ぶ）をネットワーク インフラストラクチャに統合できます。アプリケーションエンジンは、頻繁にアクセスのあるコンテンツを透過的に格納し、その同じコンテンツへの要求を満たし、サーバから繰り返し伝送されることを防ぎます。アプリケーションエンジンは、コンテンツ配信を加速させ、最大限のスケラビリティとコンテンツの可用性を実現します。サービスプロバイダーネットワークのアクセスポイント（POP）で、WCCP およびアプリケーション エンジン ソリューションを展開できます。エンタープライズ ネットワークでは、地域サイトまたは小規模ブランチ オフィスで WCCP およびアプリケーション エンジン ソリューションを展開できます。

WCCPおよびシスコのキャッシュエンジン（またはWCCPが稼働している他のアプリケーションエンジン）は、ネットワークでのトラフィックパターンをローカライズし、コンテンツ要求がローカルで実現されるようにします。

WCCPにより、サポート対象のシスコルータおよびdevicesは、コンテンツ要求を透過的にリダイレクトできます。透過リダイレクトを使用すると、ユーザは使用しているブラウザがWebプロキシを使用するように設定する必要がありません。代わりに、ターゲットURLを使用してコンテンツを要求でき、その要求は自動的にアプリケーションエンジンにリダイレクトされます。透過という用語は、エンドユーザが、自分の要求したファイル（Webページなど）が、もとの指定したサーバからではなくアプリケーションエンジンから送信されるのを知らないという意味です。

アプリケーションエンジンが要求を受け取ると、自身のローカルキャッシュからサービスしようとしています。要求された情報が存在しない場合、アプリケーションエンジンは別個の要求をエンドサーバに送信し、要求された情報を取得します。取得した情報は、アプリケーションエンジンが要求元のクライアントに転送するとともに、その後の要求に応えるため、情報をキャッシュします。

WCCPでは、アプリケーションエンジンクラスタ（一連のアプリケーションエンジン）は、複数のルータまたはdevicesにサービスできます。

WCCP メッセージ交換

次の一連のイベントは、WCCPメッセージ交換について説明します。

1. アプリケーションエンジンは、WCCPを使用してIPアドレスをWCCP対応deviceに送信し、Here I amメッセージを通して自己の存在を伝えます。deviceおよびアプリケーションエンジンは、UDPポート2048に基づき、制御チャンネルを介して互いに通信します。
2. WCCP対応deviceは、アプリケーションエンジンのIP情報を使用してクラスタビュー（クラスタ内のアプリケーションエンジンのリスト）を作成します。このビューが、I see youメッセージでクラスタ内の各アプリケーションエンジンに送信すると、本質的にすべてのアプリケーションエンジンが互いの存在を認識するようになります。クラスタのメンバーシップが一定時間同じままになった後で、安定したビューが確立されます。
3. 安定したビューが確立されると、クラスタ内の低いIPアドレスを持つアプリケーションエンジンが指定アプリケーションエンジンとして選択されます。

WCCP ネゴシエーション

WCCPプロトコルメッセージを交換する際、指定アプリケーションエンジンおよびWCCP対応deviceは次の項目をネゴシエートします。

- 転送方式（deviceがパケットをアプリケーションエンジンに転送するときに使用される方式）。deviceは、パケット宛先MACアドレスをターゲットアプリケーションエンジンMACアドレスに置き換えて、レイヤ2ヘッダーを書き換えます。次にスイッチは、パケットをアプリケーションエンジンに転送します。この転送方式では、ターゲットアプリケーションエンジンがレイヤ2でdeviceに直接接続されている必要があります。

- 割り当て方式（パケットをクラスタ内のアプリケーションエンジン間に配信するときに使用される方式）。deviceは宛先 IP アドレス、送信元 IP アドレス、宛先レイヤ 4 ポート、および送信元レイヤ 4 ポートの一部のビットを使用して、リダイレクトされたパケットを受け取るアプリケーション エンジン を 判別 します。
- パケット戻し方式（パケットをアプリケーションエンジンから通常の転送用deviceに戻すときに使用される方式）。アプリケーションエンジンがパケットを拒否し、パケット戻し機能を起動するには以下の理由があります。
 - アプリケーション エンジン が過負荷となり、パケットにサービスする余裕がない。
 - アプリケーション エンジン がサーバからエラー メッセージ（プロトコルエラーや認証エラーなど）を受け取り、ダイナミック クライアント バイパス機能を使用している。バイパスは、クライアントがアプリケーションエンジンをバイパスし、サーバに直接接続できるようにします。

アプリケーション エンジン はパケットを WCCP 対応 device に戻し、アプリケーション エンジン が存在しないかのようにサーバに転送します。アプリケーションエンジンは、再接続試行を代行受信しません。このようにして、アプリケーションエンジンは効率的にアプリケーション エンジン へのパケットのリダイレクトをキャンセルし、バイパスフローを作成します。戻し方式がレイヤ 2 書き換えである場合、パケットはハードウェア内でターゲットサーバに転送されます。サーバが情報に応答しているとき、deviceは通常のレイヤ 3 転送を使用して、情報を要求しているクライアントに戻します。

MD5 セキュリティ

WCCP は各プロトコル メッセージでオプションのセキュリティ コンポーネントを提供し、deviceとアプリケーションエンジン間のメッセージでMD5 認証をdeviceが使用できるようにします。（deviceの認証がイネーブルになっているとき）MD5 で認証されないメッセージは、deviceによって廃棄されます。パスワード文字列は、MD5 値と組み合わせられ、deviceとアプリケーションエンジン間の接続のセキュリティを確立します。各アプリケーションエンジンで同じパスワードを設定する必要があります。

パケットのリダイレクトおよびサービス グループ

WCCP を設定して、FTP、プロキシ Web キャッシュ処理、音声およびビデオアプリケーションなど、リダイレクト用トラフィックを分類できます。この分類はサービスグループと呼ばれ、プロトコルタイプ（TCP または UDP）およびレイヤ 4 送信元ポート番号と宛先ポート番号に基づきます。サービスグループは、TCP ポート 80 を意味する、Web キャッシュなどの Well-known 名または 0 ～ 99 のサービス番号のいずれかで識別されます。サービスグループは、プロトコルおよびレイヤ 4 ポート番号にマッピングするように設定され、独立して確立および維持されます。WCCP は、アプリケーションエンジンに加入して分類基準を動的に提供するダイナミック サービスグループを許可します。

deviceまたはdeviceスタックでは最大 8 つまでのサービスグループを、およびサービスグループにつき 32 までのキャッシュエンジンを設定できます。WCCP のグループ定義には、サービス

グループのプライオリティがあります。WCCPは、プライオリティを使用して、deviceハードウェアのサービス グループを設定します。たとえば、サービス グループ 1 はプライオリティ 100 で、宛先ポート 80 を探している、サービス グループ 2 はプライオリティ 50 で、送信元ポート 80 を探している場合、送信元および宛先ポート 80 の着信パケットは、サービスグループ 1 を使用して転送されます。これは、サービスグループ 1 の方がプライオリティが高いためです。

WCCP は各サービス グループのアプリケーション エンジンのクラスタをサポートします。リダイレクトされたトラフィックは、アプリケーション エンジンの 1 つに送信可能です。device は、サービス グループのクラスタ内のアプリケーション エンジン間で、トラフィックのロードバランシングのマスク割り当て方式をサポートします。

WCCP が device 上で設定された後、device はクライアントから受信したすべてのサービスグループ パケットをアプリケーション エンジンに転送します。ただし、次のパケットはリダイレクトされません。

- アプリケーションエンジンから発信され、サーバに宛てられたパケット
- アプリケーション エンジンから発信され、クライアントに宛てられたパケット
- アプリケーションエンジンにより返送または拒否されたパケットこれらのパケットはサーバに送信されます。

プロトコル メッセージの送受信に、サービス グループにつき 1 つのマルチキャスト アドレスを設定できます。マルチキャスト アドレスが 1 つの場合、アプリケーション エンジンは通知を 1 つのアドレスに送信することになり、たとえば 225.0.0.0 など、サービス グループのすべてのルータにカバレッジを提供します。ルータを動的に追加および削除する場合、1 つのマルチキャスト アドレスを使用することで、コンフィギュレーションが簡単になります。これは、特に WCCP ネットワークのすべてのデバイスのアドレスを入力する必要がないためです。

ルータ グループ リストを使用すれば、アプリケーション エンジンから受け取ったプロトコル パケットを検証できます。グループ リストのアドレスに一致するパケットは処理され、グループ リスト アドレスに一致しないパケットはドロップされます。

特定クライアント、サーバ、またはクライアントとサーバのペアのキャッシングをディセーブルにするには、WCCP リダイレクト アクセス コントロール リスト (ACL) を使用します。リダイレクト ACL に一致しないパケットはキャッシュをバイパスし、通常通りに転送されます。

WCCP パケットがリダイレクトされる前、device はインターフェイス上に設定されているすべての着信機能に関連した ACL をテストし、パケットが ACL 内のエン트리と一致するかどうかによって、パケットの転送を許可または拒否します。



(注) WCCP リダイレクト リストでは、許可と拒否の両方の ACL エントリがサポートされません。

パケットがリダイレクトされると、リダイレクトされたインターフェイスに関連付けられた出力 ACL がパケットに適用されます。元のポートに関連付けられた ACL は、リダイレクトされたインターフェイス上で必須出力 ACL を特に設定しない限り適用されません。

WCCP の設定方法

WCCP のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
WCCP イネーブル ステート	WCCP サービスはディセーブルです。
プロトコルバージョン	WCCPv2
インターフェイス上で受信したトラフィックのリダイレクト	ディセーブル

キャッシュ サービスのイネーブル化

WCCP パケット リダイレクトが機能するために、クライアントに接続されたdevice インターフェイスが着信パケットをリダイレクトするように設定する必要があります。

この手順では、ルーテッドポートでこれらの機能を設定する方法を示します。これらの機能をSVIで設定するには、手順に従った設定例を参照してください。

キャッシュ サービスをイネーブルにしたり、マルチキャスト グループ アドレスまたはグループ リストを設定したり、ルーテッド インターフェイスを設定したり、クライアントから受信した着信パケットをアプリケーション エンジンにリダイレクトしたり、マルチキャスト アドレスを受信するようにインターフェイスをイネーブルにしたり、パスワードを設定したりするには、次の手順を実行します。この手順は必須です。

始める前に

SDM テンプレートを設定し、デバイスをリブートします。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip wccp {web-cache | service-number} [group-address groupaddress] [group-list access-list] [redirect-list access-list] [password encryption-number password]**
4. **interface interface-id**
5. **no switchport**
6. **ip address ip-address subnet-mask**
7. **no shutdown**
8. **exit**
9. **interface interface-id**
10. **no switchport**
11. **ip address ip-address subnet-mask**
12. **no shutdown**

13. **ip wccp** {web-cache | service-number} **redirect in**
14. **ip wccp** {web-cache | service-number} **group-listen**
15. **exit**
16. **end**
17. **show running-config**
18. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： スイッチ> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： スイッチ# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip wccp {web-cache service-number} [group-address groupaddress] [group-list access-list] [redirect-list access-list] [password encryption-number password] 例： スイッチ (config)# ip wccp web-cache	キャッシュ サービスをイネーブルにし、アプリケーション エンジンで定義されたダイナミック サービスに対応するサービス番号を指定します。デフォルトでは、この機能はディセーブルになっています。 （任意） group-address groupaddress には、devices およびアプリケーションエンジンがサービスグループに加入するときに使用するマルチキャストグループアドレスを指定します。 （任意） group-list access-list には、マルチキャストグループアドレスが使用されない場合、サービスグループに加入しているアプリケーションエンジンに対応する有効な IP アドレスのリストを指定します。 （任意） redirect-list access-list には、特定ホストのリダイレクトサービスまたはホストから特定パケットを指定します。 （任意） password encryption-number password には、暗号化番号を指定します。指定できる範囲は0～7です。暗号化しない場合は0、独自の場合は7を使用します。7文字以内でパスワード名を指定します。device は、パスワードと MD5 認証値を組み合わせて、device とアプリケーション エンジンと

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>の接続にセキュリティを確保します。デフォルトでは、パスワードは設定されておらず、認証も実行されていません。</p> <p>各アプリケーション エンジンで同じパスワードを設定する必要があります。</p> <p>認証がイネーブルになっている場合、deviceは認証されないメッセージを廃棄します。</p>
ステップ 4	interface <i>interface-id</i> 例： スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/1	アプリケーション エンジンまたはサーバに接続されたインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	no switchport 例： スイッチ(config-if)# no switchport	レイヤ 3 モードを開始します。
ステップ 6	ip address <i>ip-address</i> <i>subnet-mask</i> 例： スイッチ(config-if)# ip address 172.20.10.30 255.255.255.0	IP アドレスとサブネット マスクを設定します。
ステップ 7	no shutdown 例： スイッチ(config-if)# no shutdown	インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 8	exit 例： スイッチ(config-if)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。各アプリケーション エンジンおよびサーバにステップ 4～8 を繰り返します。
ステップ 9	interface <i>interface-id</i> 例： スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/2	クライアントに接続するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 10	no switchport 例： スイッチ(config-if)# no switchport	レイヤ 3 モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	ip address <i>ip-address</i> <i>subnet-mask</i> 例： スイッチ (config-if) # ip address 175.20.20.10 255.255.255.0	IP アドレスとサブネット マスクを設定します。
ステップ 12	no shutdown 例： スイッチ (config-if) # no shutdown	インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 13	ip wccp { web-cache <i>service-number</i> } redirect in 例： スイッチ (config-if) # ip wccp web-cache redirect in	クライアントから受信したパケットをアプリケーション エンジンにリダイレクトします。クライアントに接続されているインターフェイス上でイネーブルにします。
ステップ 14	ip wccp { web-cache <i>service-number</i> } group-listen 例： スイッチ (config-if) # ip wccp web-cache group-listen	(任意) マルチキャスト グループ アドレスを使用するとき、 group-listen キーワードはインターフェイスをイネーブルにしてマルチキャストアドレスをリスンします。アプリケーション エンジンに接続されているインターフェイス上でイネーブルにします。
ステップ 15	exit 例： スイッチ (config-if) # exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。各クライアントにステップ 9～15 を繰り返します。
ステップ 16	end 例： スイッチ (config) # end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 17	show running-config 例： スイッチ # show running-config	入力を確認します。
ステップ 18	copy running-config startup-config 例： スイッチ # copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

設定例

次に、ルーテッド インターフェイスを設定し、マルチキャスト グループ アドレスとリダイレクト アクセス リストでキャッシュ サービスをイネーブルにする例を示します。ギガビットイーサネット ポート 1 はアプリケーション エンジンに接続され、IP アドレス 172.20.10.30 のルーテッド ポートとして設定され、再イネーブル化されています。ギガビットイーサネット ポート 2 はインターネット経由でサーバに接続され、IP アドレス 175.20.20.10 のルーテッド ポートとして設定され、再イネーブル化されています。ギガビットイーサネット ポート 3～6 はクライアントに接続され、IP アドレス 175.20.30.20、175.20.40.30、175.20.50.40、および 175.20.60.50 のルーテッド ポートとして設定されています。device はマルチキャスト トラフィックを受信し、クライアント インターフェイスから受信したパケットをアプリケーション エンジンにリダイレクトします。

```
スイッチ# configure terminal
スイッチ(config)# ip wccp web-cache group-address 224.1.1.100 redirect list 12
スイッチ(config)# access-list 12 permit host 10.1.1.1
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/1
スイッチ(config-if)# no switchport
スイッチ(config-if)# ip address 172.20.10.30 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# no shutdown
スイッチ(config-if)# ip wccp web-cache group-listen
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/2
スイッチ(config-if)# no switchport
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.20.10 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# no shutdown
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/3
スイッチ(config-if)# no switchport
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.30.20 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# no shutdown
スイッチ(config-if)# ip wccp web-cache redirect in
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/4
スイッチ(config-if)# no switchport
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.40.30 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# no shutdown
スイッチ(config-if)# ip wccp web-cache redirect in
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/5
スイッチ(config-if)# no switchport
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.50.40 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# no shutdown
スイッチ(config-if)# ip wccp web-cache redirect in
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/6
スイッチ(config-if)# no switchport
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.60.50 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# no shutdown
```

```

スイッチ(config-if)# ip wccp web-cache redirect in
スイッチ(config-if)# exit

```

次に、SVIを設定し、マルチキャストグループリストでキャッシュサービスをイネーブルにする例を示します。VLAN 299 は、IP アドレス 175.20.20.10 で作成および設定されています。ギガビットイーサネットのポート 1 をインターネット経由でサーバに接続し、VLAN 299 のアクセスポートとして設定します。VLAN 300 は、IP アドレス 172.20.10.30 で作成および設定されています。ギガビットイーサネットポート 2 はアプリケーションエンジンに接続され、VLAN 300 のアクセスポートとして設定されています。VLAN 301 を作成し、IP アドレス 175.20.30.50 に設定します。クライアントに接続されているファストイーサネットポート 3～6 は、VLAN 301 のアクセスポートとして設定されています。deviceは、クライアントインターフェイスから受信したパケットをアプリケーションエンジンにリダイレクトします。



(注) WCCP リダイレクトリストでは、許可と拒否の両方の ACL エントリがサポートされません。

```

スイッチ# configure terminal
スイッチ(config)# ip wccp web-cache group-list 15
スイッチ(config)# access-list 15 permit host 171.69.198.102
スイッチ(config)# access-list 15 permit host 171.69.198.104
スイッチ(config)# access-list 15 permit host 171.69.198.106
スイッチ(config)# vlan 299
スイッチ(config-vlan)# exit
スイッチ(config)# interface vlan 299
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.20.10 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/1
スイッチ(config-if)# switchport mode access
スイッチ(config-if)# switchport access vlan 299
スイッチ(config)# vlan 300
スイッチ(config-vlan)# exit
スイッチ(config)# interface vlan 300
スイッチ(config-if)# ip address 171.69.198.100 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface gigabitethernet1/0/2
スイッチ(config-if)# switchport mode access
スイッチ(config-if)# switchport access vlan 300
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# vlan 301
スイッチ(config-vlan)# exit
スイッチ(config)# interface vlan 301
スイッチ(config-if)# ip address 175.20.30.20 255.255.255.0
スイッチ(config-if)# ip wccp web-cache redirect in
スイッチ(config-if)# exit
スイッチ(config)# interface range gigabitethernet1/0/3 - 6
スイッチ(config-if-range)# switchport mode access
スイッチ(config-if-range)# switchport access vlan 301
スイッチ(config-if-range)# exit

```

次のタスク

キャッシュサービスをディセーブルにするには、**no ip wccp web-cache** グローバルコンフィギュレーション コマンドを使用します。着信パケットリダイレクトをディセーブルにするには、**no ip wccp web-cache redirect in** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。この手順を完了した後、ネットワークでアプリケーション エンジンを設定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。